

同推協だより

No.144号

2026年1月発行

神前地区同和教育推進協議会

Email:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



★ 町別・団体別懇談会が大多数の町・団体で開催されました。

毎年9月から12月かけて行う人権に関する懇談会が今年も実施されました。初めて参加された方や、ほぼ毎年参加していただいている方を含め活発に話し合いができました。若い世代の参加も多くあり、人権意識の高まりに期待感を持ちました！団体別懇談会では同じ様な悩みを持つ人たちで懇談することで連帯感や親近感が仲間意識が芽生えるきっかけにできたように思います。町別懇談会では世代や、職業を超えた話し合い、相互に違った考え方等に接することにより、より幅広く考える事の重要性や、自身を振り返ることが出来たように思います。

懇 談 会 の 様 子



神前こども園の懇談会では

11月5日、7日の2部制で同和問題懇談会を実施、保護者・園の職員・同推協の参加者延べ115名で18班に分かれて話し合いました。自分の経験や思いを話したり、他の人の話を聞く中で、偏見や価値観を振り返り、自己の中の差別心に気づくことで『差別をなくすために明日から出来ることを』みんなで考えました

設問「子どもの泣き声をかわいいと思う」「部落差別はそっとしておけば無くなると思う」2つの設問での話し合いをきっかけに、自分とは違う意見があることに気づいたり、みんなの思いを聞き自分を振り返った後『差別をなくすために明日からできることを』考えました。

～懇談会に参加して、感じたことの紹介～

- ・差別をなくすために、子どもたちへどのように接するべきか、何が出来るかを考える会で勉強になりました。
- ・知らないことで無意識に偏った見方をしたり、人を傷つけてしまうことがないよう、今後も学び続けていきたいです。
- ・子どもたちも一緒に家族で話し、考えたいと思いました。
- ・一緒に色々な問題を考え意思を出し合える親子関係でありたいと思いました。
- ・子どもに伝えていくためにも、まずは自分が知りたいという気持ちになれた懇談会でした。

☆ 町別・団体別懇談会より ~つづき~ 神前こども園

みんなで考えた“明日からできること”的一部を紹介します

- ◇年齢が小さい子でも、その子なりの考えがあるので分らないと決めつけずに話を聞いてみる。
- ◇聞いたことを鵜呑みにせず、まずは”知る”（確認する）ことから始める。
- ◇無知は怖いので、固定観念にとらわれず、子どもにもいろいろな世界があるという事を教えていきたい。
- ◇懇談会や神前トークに、まずは参加する（知識を得る機会に積極的に参加する）人の話を聞く。（いろいろな考え方があることを知る）。
- ◇子どもの考えをまずは受け止め、一緒に考える。

～ “自分にできること”をみんなでやっていこうと思います!! ～

町別懇談会に参加して

「懇談会は前から参加しとるのやけど昔は同和問題の話やったけど、今は何の目的でやっているの？」という話を時々聞きます。答えは残念ながら今も同和問題（部落差別）です。まだ解消されていない実態があるからです。発言された方はもう部落差別はもうないとか、自分とは関係がないし関心がないと思われているようです。部落差別を正しく学ぶことと差別の実態となぜ差別がつくられるのかを、多くの人が認識する必要があり、懇談会はその場として必要なのです。差別や犯罪はする側の問題であり、される側の問題ではないのです。自分自身がする側にならないためには、無関心・無知な状態で聞く外部情報を鵜呑みにしないことそのことで偏った思い込み（偏見）に陥りやすく、正しい判断ができず差別する側になってしまっていることもあるからです。はて？それってホント？と立ち止まって確認を!!



町別懇談会の様子

教育におけるエンパワメントとは：
人が本来持っている力を引き出し、取り戻して行くために自分で考え方やアプローチの行動できるように促していく考え方やアプローチのことです。

ある学校の懇談会の場で、子どもたちには、学校の学びで先ず身につけて欲しいのは人権感覚を身につけること。人としてどう考えるか、どう生きるかを考えられる人間力のある人となり、その後に知識や技術を身に着け、自分のやりたいことが何かを見つけ、生きる糧とし自分で決断して行く力を育んで欲しい。また部落差別に関心の薄い地域ほど人権学習が必要だと話し合う中、エンパワメントも必要ではいう話が出ました。その場でのエンパワメントとは当事者(被差別者を含めた私たち)が力をつけて社会を変革できるようにすることが「何か」を見つけるということ（視点を変えて取り組み答えを導き出すこと）でした。

神前地区文化祭で人権コーナー開催



しおりづくり（かわいくできた！）



プラバン作り

上手に縮んだ



人権カルタ大会（勝つのはだれ？）



人権標語 気づきは大切！



↑
神前同推協の活動の紹介



↑
神前こども園・園児作品

☆上記以外にもポスターや色紙等多く作品や人権啓発パンフレット等展示配付しました。（こどもたちを中心に多くの方に来場頂きました）

人権コーナーの催し物のアイデアを募集します!!
(神前市民センターロビーの同推協のポストに投函ください)

フィールドワークin滋賀

☆ 11月15日に滋賀県立美術館と県立琵琶湖博物館を訪問・見学しました。

美術館はアール・ブリュット「生の芸術」と言われる、正規の美術教育をうけていない人による芸術作品を、多数収集展示する公立美術館です。いのちの息吹を感じさせる迫力ある作品に圧倒されました。琵琶湖博物館は、昔は伊賀や甲賀の付近にあったものが、現在の位置に移動したことや、断層のために流入する土砂で水深が浅くなかった事など、初めて知ることも多く、他にも大型淡水魚が飼育されていたりなど、訪問してよかったです。



ほぼ全員で”ハイチーズ”

滋賀県立美術館前で

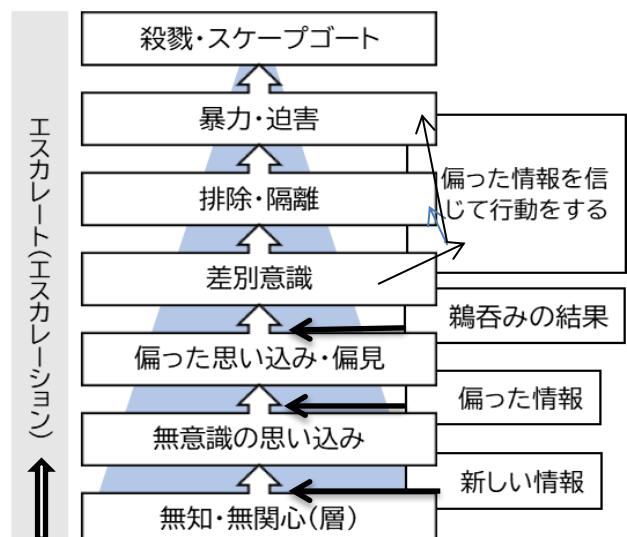


人権について考えるコーナー

差別の構造について～なぜ人は差別をするか～

右図は差別の構造を示したものです。

無知・無関心が無批判で受け入れた情報により思い込みが生じます。その情報が偏った情報でそれを正しいと信じたとき、偏見となります。偏見は差別意識を生み易く、偏見に基づく行動で更なる悲劇に繋がります。その事例には枚挙にいとまがありません。差別の構造を知る事により、人権問題の正しい知識を持つことに努め、新しく聞く情報は必ず真偽を確認することが大切です。



同推協では常時 啓発委員（仲間として活動して頂く方）を募集しています！

【問い合わせ先】神前市民センター内 団体事務局 TEL・fax 327-1501(受付午後)

Email : kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp